

【運営方針4】開かれた農大づくり

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】地域と連携した活動等による情報発信					
評価項目	評価目標	具体的方策と指標・基準等	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1	農業教育機関との交流推進 (1)連携活動数:3計画	① 高大連携活動の実施【拡充】 農業関係の高校生の就農等を促進するため、農業高等学校の農業クラブ活動に対して、プロジェクト発表会や意見発表会での助言など、連携した就農支援を行う。また、新たに普通高等学校との連携として、山辺高等学校食物科と農産加工経営学科(2学年)が、農林大の卒業論文研究で試作した製品に関するアンケート調査の取組みや農林大で生産した食材を提供し、高校生の食品開発を支援する取組みを行う。 高校生の林業に対する理解を促進するため、高校での林業に関する授業の実施や、刈払機、チェーンソーの安全操作を指導する。  ② 体験授業や出前授業の実施【継続】 農業関係高校等の生徒や教員を本校に招き、各学科の学習内容や学校生活、進路等について紹介するキャンパスツアーを実施する。開催方法については、コロナ禍により対面での開催が困難である場合には、ウェブ会議サービス「Zoom」による開催を検討する。 また、出前授業では、各学科の職員が高校を訪問し、講義や実習を通して農業や林業の役割・意義や学習内容等について紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県高校農業クラブ連盟の強化練習会や意見発表会・プロジェクト発表会において本校職員が指導・助言を行った。高大連携実技講習会の夏期さくらんぼ剪定を8月に実施したのが高校・大学からの参加者はなかった。冬期管理講習会(さくらんぼ・りんご)は、コロナ禍により外部の参加を中止とした。</li> <li>山辺高等学校食物科と連携した取組として、農林大で製造したニンジンペーストを提供して試作品を作成した。また、農林大の卒業研究で試作したチーズケーキを同校生徒に評価してもらった。</li> <li>高校生に対する林業・森林経営に関する授業を6月・7月に村山産業高等学校(2回)と6月・9月・10月に置賜農業高等学校(3回)で実施した。</li> </ul> <p>* コロナ禍のため、活動が制限されたものの、強化練習会等における指導等、山辺高等学校との連携、林業・森林経営に関する授業の3計画を実施できたことから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容については、農業高校との連携強化推進会議で検討し、生徒が農林業を進路選択の一つとするよう各種取組みを実施する。</li> <li>山辺高等学校食物科との連携活動として、農産加工経営学科(2学年)が卒業論文研究で試作した製品に関するアンケート調査等の取組みや農林大で生産した食材を提供し、高校生の食品開発を支援する取組みを引き続き行う。試作した加工品については、農大市場で販売してもらうなど、高校生に対して販売機会を与える取組みを行う。</li> <li>高校生への林業・森林経営に関する授業は、各高校と日程・内容を調整しながら来年度も引き続き実施する。</li> </ul>
2	地域と連携した課題解決に向けたプロジェクト活動の実施 (1)プロジェクト実施数:7課題 (2)地域と連携した取組み数:3課題	① 地域協働研究課題プロジェクトの実施【継続】 各学科が主体となって「地域協働研究」に取組み、専攻分野における課題を調査し、関係団体等と連携しながら、農林大の栽培や農産加工技術の強みを活かした課題解決に向けた地域支援活動を行う。  ② 地域と連携した取組み【継続】 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」、「山形県ホルスタイン共進会」など、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての参加を通して、本校の取組みを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学科の1学年学生が各々の学習内容を生かし、地域協働研究課題プロジェクトに取組んだ。取組み内容は下記のとおりである。</li> <li>(稲作経営学科)地域の未利用資源(豚鶏骨灰)を稲作肥料として利用する調査研究(果樹経営学科)霜害後の事後対策としての人工授粉の徹底や早期着色管理による高品質なさくらんぼ果実生産に向けた現地実証(野菜経営学科)「角川かぶ(戸沢村)」の優良系統選抜と選抜系統の現地栽培(花き経営学科)枝物花木(スノーボール)の栽培管理技術の調査研究(畜産経営学科)和牛における発酵乳給与による繁殖育成技術の安定化(農産加工経営学科)真室川町産雪下にこんじんを活用した加工品開発(林業経営学科)村山産業高等学校実習林における同校生徒に対する森林管理指導</li> </ul> <p>なお、プロジェクト発表会を2月に行い、各連携先とリモートでつなぎ、意見をいただいた。</p> <p>* プロジェクト実施数は、目標通りの7課題であることから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域協働研究課題プロジェクト」について、農林大の栽培や農産加工技術等の強みを活かして、さらに地域の課題解決につなげられるよう、課題内容について検討し、引き続き実施していく。</li> <li>花き経営学科は、「新庄・もがみフラワーフェスティバル」、「山形フラワーフェスティバル」に参加し、地域の活性化に寄与する。</li> <li>畜産経営学科は、「山形県ホルスタイン共進会」に参加し、県内トップレベルの取組みについて学び、乳牛飼養管理技術の向上につなげる。</li> </ul>
3	ボランティア活動への支援 (1)取組み数:3取組み	① 学生主体のボランティア活動への支援【継続】 学生の社会経験が、今後の学習や進路選択に活かせるよう、学生のボランティア活動(さくらんぼサポーター活動や高齢者宅の除雪作業への参加等)を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>さくらんぼの収穫労働力の支援として、「さくらんぼサポーター」を結成し、学生有志(10名)が、6月、東根市のさくらんぼ園地で収穫作業に協力した。</li> <li>2月中旬に市内の高齢者世帯の除雪支援に取組む予定であったが、新庄社会福祉協議会からの依頼がなかった。</li> </ul> <p>* 取組み数は、「さくらんぼサポーター」の1取組みのみであり、目標の3取組みを下回った。コロナ禍の状況で実施は困難であったことから、評価なし「-」とする。</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>「さくらんぼサポーター」については、県全体で取組んでおり、引き続き、学生の参加を促していく。</li> <li>各種イベントでのボランティア活動は、学生のコミュニケーション能力や社会貢献意欲の向上につながっていることから、来年度もコロナ対策を行いながら、積極的に参加していく。</li> </ul>

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業教育機関との交流推進については、コロナ禍により各種活動が制限を受ける中ではあったが、県内高等学校と連携しながら、3計画を実施することができた。</li> <li>地域の課題解決のため、地域と連携して各学科1課題、合計7課題に計画通り取組んだ。その成果を発表するプロジェクト発表会において、連携先から高い評価を受けることができた。</li> <li>ボランティア活動については、コロナ禍により十分な活動ができなかった。</li> </ul>	C

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>農林大と芸工大がコラボすれば、農業をさらにクリエイティブで面白いものにできるのではと期待しています。 → 東北芸術工科大学の先生を講師として、パッケージデザイン、ポスター、POP作成等、商品デザインの講義を検討します。</li> <li>地域との連携についてSDGsの観点から取り組むのはどうでしょうか?学生の意識向上、社会貢献意欲の向上につながると思います。他の大学では、SDGsの取組みが盛んに行われています。 → SDGsは農業を含めた時代のキーワードと認識しています。まずは、学生のSDGsへの理解が深まるよう、講義を実施します。</li> <li>コロナ禍の中で、大変厳しい取組みだったと思います。今後、ウェブやメディア等を上手く使い、情報発信はどうかと思います。 → 本校ホームページのさらなる充実を図るとともに、マスコミに対して、プレスリリースを増やし、情報発信を強化して参ります。</li> <li>地域との連携は、とても重要で林業経営学科では、村山産業高校の学習林において指導したようであるが、現場での指導はとても有意義であるため今後も継続をお願いしたい。また、農林大で卒業の聴講生として高校生の参加が制度的に可能であれば、是非、検討して頂きたい。 → 現状では、高校生が農林大の授業を聴講するような制度がないため、不可能であるが、高等学校への出前授業や農林大における体験学習等により、具体的な授業内容を伝える機会を設けていきます。</li> <li>対外的な活動については、コロナ禍により実施が困難となる場合が多く、苦慮されたことと思います。この場合の評価について、「実施困難であったためC」とされていますが、この評価方法には疑問を感じます。目標は達成できなかったが他の方法により「目的が達成されたためC評価」とか、「実施困難であったため、評価できず」とすることはできないでしょうか。ご検討ください。 → ご指摘のとおり変更しました。</li> <li>収穫労働の支援活動は、収穫期の人手不足が深刻化しており、さくらんぼだけでなくメロンやスイカなどの支援活動も視野に入れてはどうか。また、学生のうちから直接農家と触れ合うことで就農してからもいろいろと役立つと思う。 → 現状、アルバイトとして稲作(田植え)の仕事を行っている学生がいるが、今後、同様にアルバイトとして、メロンやスイカ等の支援をできればと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんどん現場に出て、農業を実感することは良いことだと思います。</li> <li>学校の外に飛び出し、地域をテーマとしての課題解決型プロジェクトへの取組みは、社会の反響が大きく、農林大の良さを更にアピールできると思う。</li> <li>コロナ禍でも工夫して取り組んでいると思う。カッコ良くないところの職業にならないと思う。その点、林業のユニフォームは目を引く、見た目も大事。</li> </ul>	C